



正保国絵図（1640年代。当館蔵）

2025.8.13 令和7年度いなさ会総会

絵図・文献でたどる 大社の町並みと特色

ただの絵のようでも、

1640年代は、

①堀川の河口が神戸川の河口に合流していた

②菱根池が完全には排水されずに残っていた

ことがわかる。

→絵画（図像）も有力な歴史史料

島根県立 古代出雲歴史博物館

専門学芸員 岡宏三（高校37期）

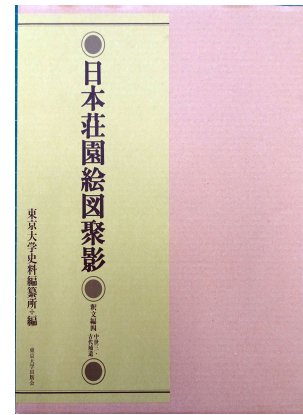
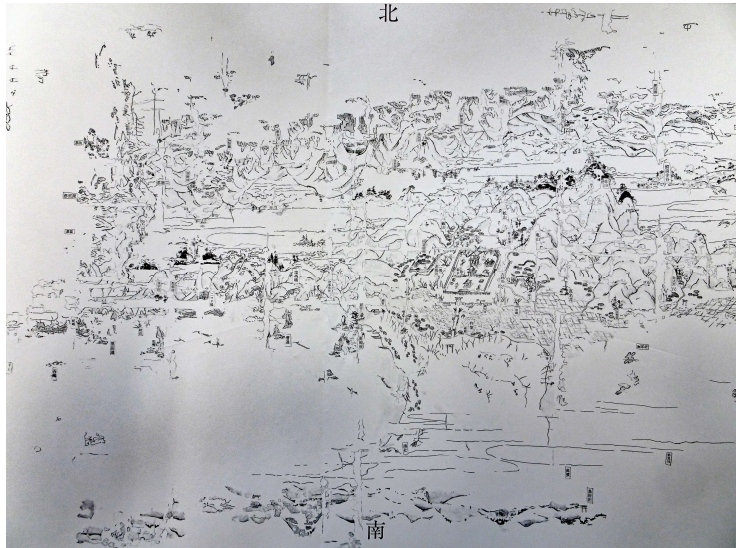
大社（杵築）の景観の特色

全国で唯一 中世（鎌倉期）以降のほぼ同一地位の景観の変遷を
絵図等でたどることができる地域

①出雲大社并神郷図	千家家	鎌倉末期（14世紀初頭）
②杵築大社近郷絵図	北島家	江戸時代（1664頃）
③天保杵築惣絵図	千家家	江戸時代（1830年代頃）
④大社町絵図	手銭家	明治4年（1871）
⑤出雲国大社神地略図面	平岡家・藤間家	明治4年（1871）
⑥大社航空写真	出雲市	昭和11年（1936）

*京都 洛中洛外図屏風（上杉本。天正2年＝1574）以降～

①出雲大社并神郷図(千家家。鎌倉末期(14世紀初頭))

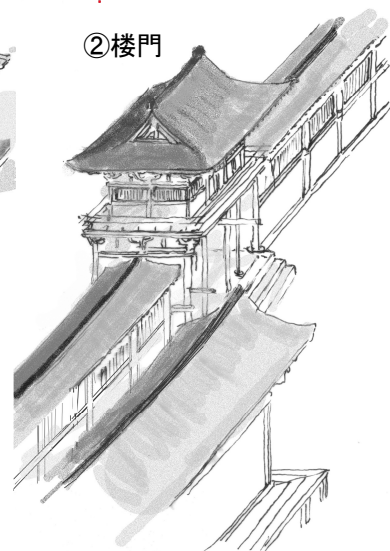
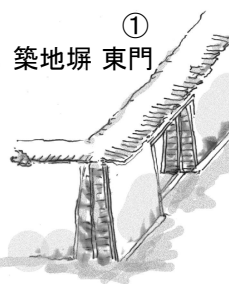


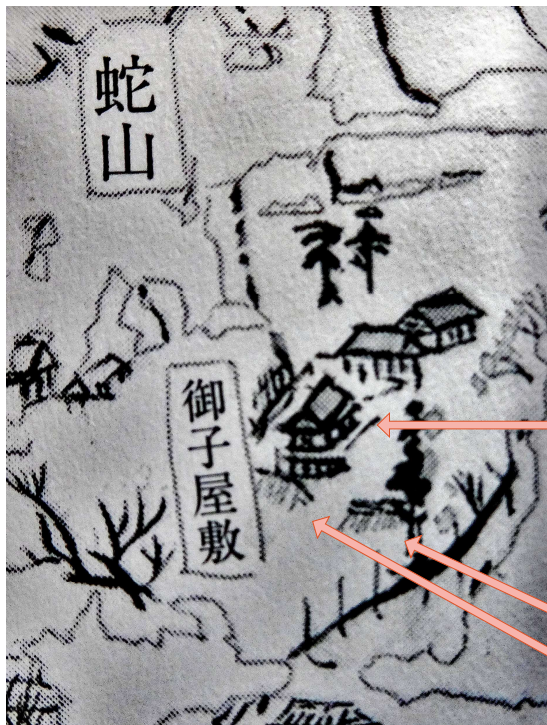
東京大学史料編纂所編『日本荘園絵図聚影』
東京大学出版会、2024年)

② 同時代の絵画史料（例：清浄光寺本「一遍上人絵伝」）で分析



出雲大社境内部分





「御子屋敷」とは？

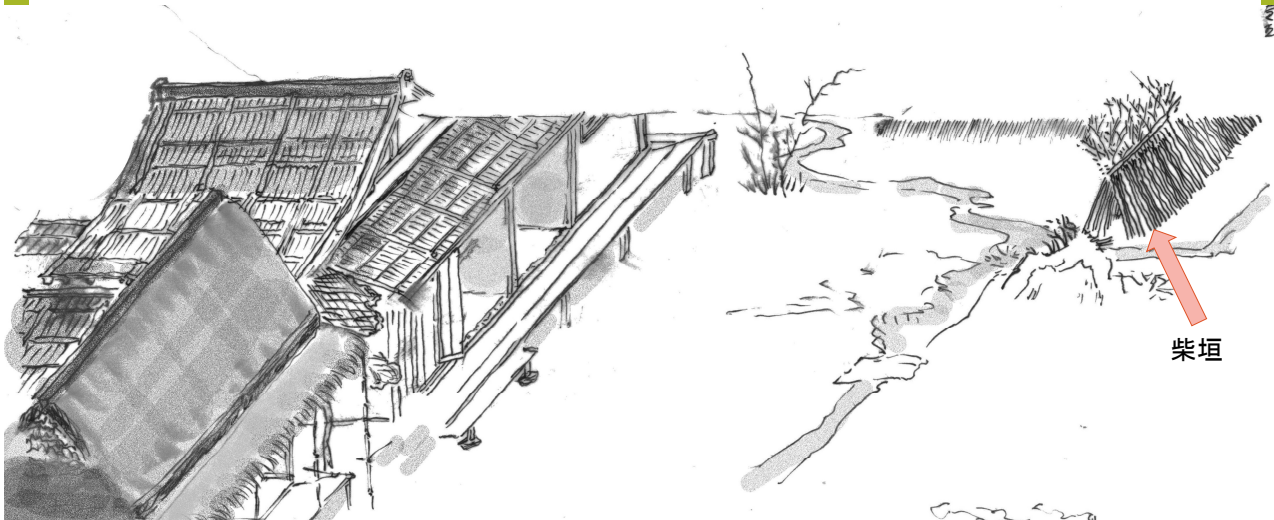
地頭クラスの屋敷構え⇒巫女ではなく、国造の子息の屋敷の意か？

縁を廻らした建物をはじめとする、数棟で構成される屋敷

柴垣

「御子屋敷」とは？

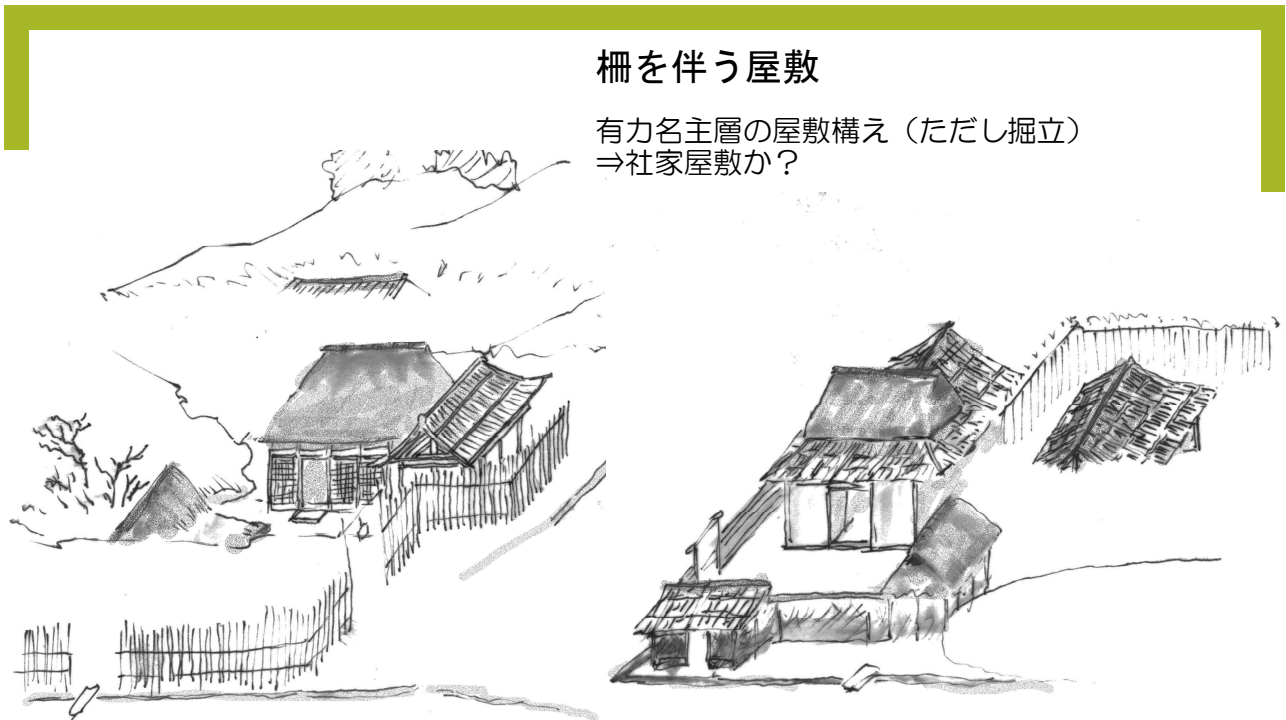
地頭クラスの屋敷構え⇒巫女ではなく、国造の子息の屋敷の意か？





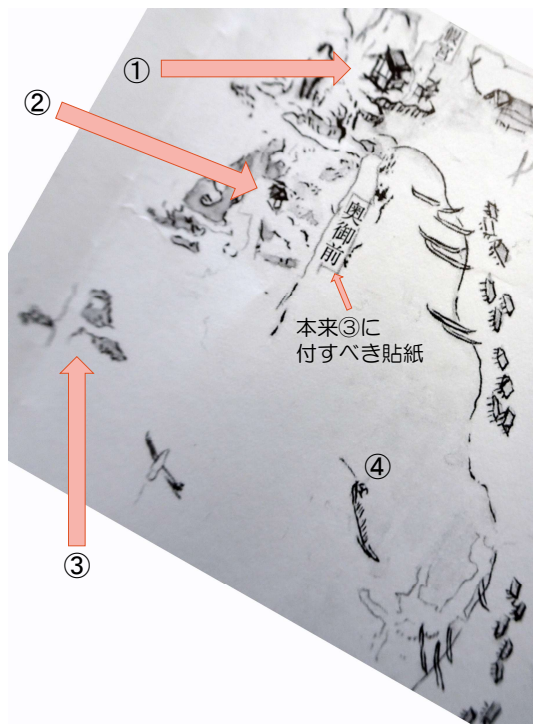
柵を伴う屋敷

有力名主層の屋敷構え（ただし掘立）
⇒社家屋敷か？



柵を伴う屋敷

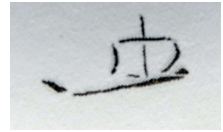
有力名主層の屋敷構え（ただし掘立）
⇒社家屋敷か？



杵築浦

- ①仮の宮（上の宮）
- ②下の宮（地御前）
- ③弁天島（奥御前⇒沖御前）

⑤



日本海沖合に描かれた帆船

④漁船



⑤廻船



700年前の海岸線

前述の神郷図にみえる仮宮・下宮等の位置、汀線からすると、

鎌倉末期の稲佐浜は、かなり東方に位置していた

①養命寺

②潮音寺・安養寺



700年前の海岸線

①養命寺

②潮音寺・安養寺



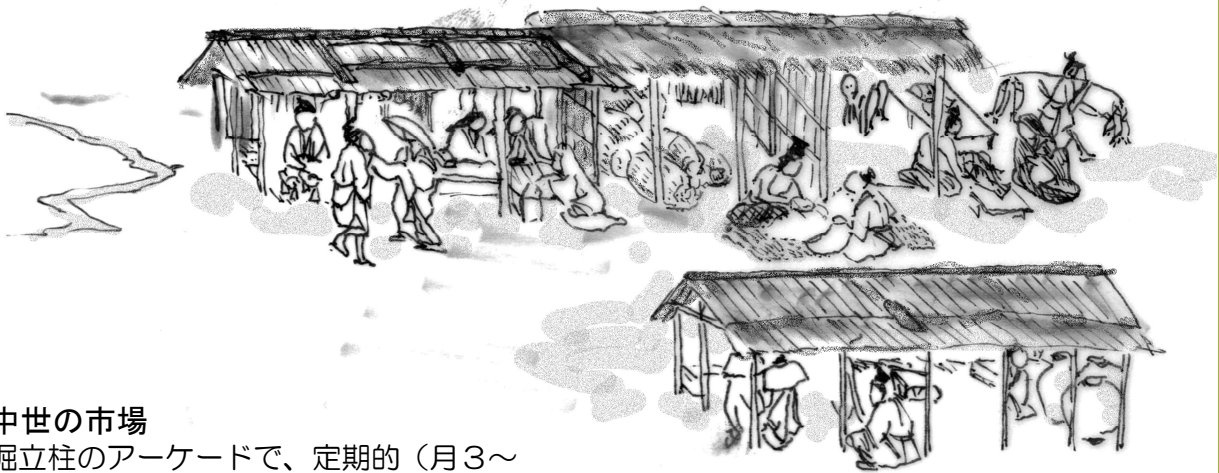
養命寺前⇒市場（市庭）を形成



養命寺石段下、南側に東西並行して形成された建物群 ⇒市場

当時の売り買いの光景は？

養命寺前⇒市場（市庭）を形成



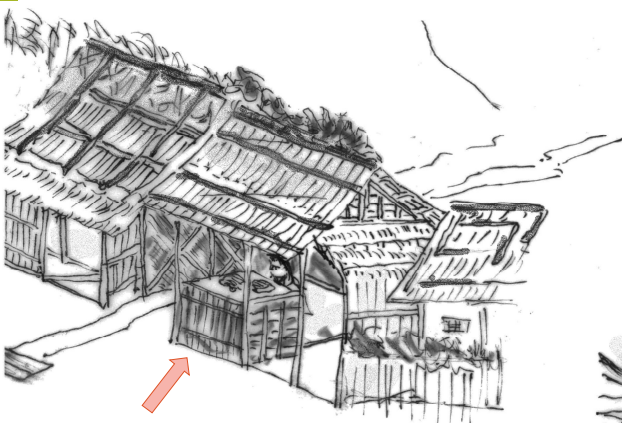
中世の市場

掘立柱のアーケードで、定期的（月3～6回）に開催

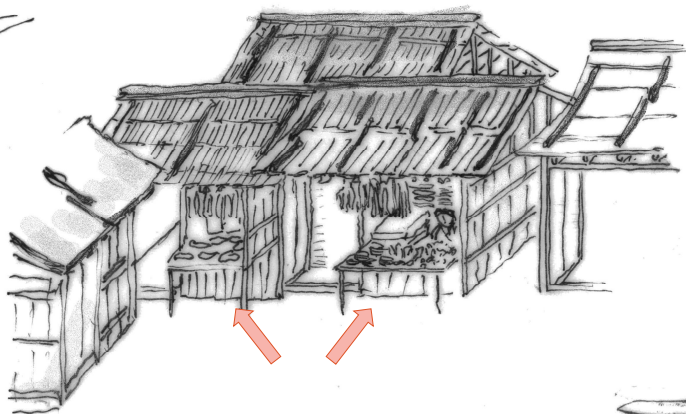
市場から店へ

室町期

品物を並べて客にみせる棚（見世棚）を備えた建物⇒見世（店）の成立



杵築では、中村・大土地・越峠・市場を中心に商家、宿屋（室）などが成立していく



②杵築大社近郷絵図(北島家。江戸時代(1664頃))



寛文の大造堂（1661～67）
に際し、後の時代の参考として
松江の絵師・西山久三郎に描か
せた当時の景観

稲佐の浜 砂の堆積による陸地の拡大

奉納山の3棟

①八王子（廃絶。現在手斧
神社あり）

②奉納堂（書写した法華経を
納めた金銅の経筒を奉納した
堂。廃絶（石見では、大田市
大田南八幡宮に納経堂（県指
定）が現存）

③十王堂（麓に移転）

半陸地化した下の宮

⇒砂の堆積拡大（16世紀以降、
鉄穴流しの影響か？）



近郷絵図の写実性

速玉社（因佐社）西側の岩場

現 在 県道29号（大社日御碕線）＋雑木・茅が生い茂る砂地

明治末期まで 塩搔島（塩焼島）周辺は岩場



（所シキ焼ヲ鹽テメ初代神）島焼鹽濱佐因（雲田）

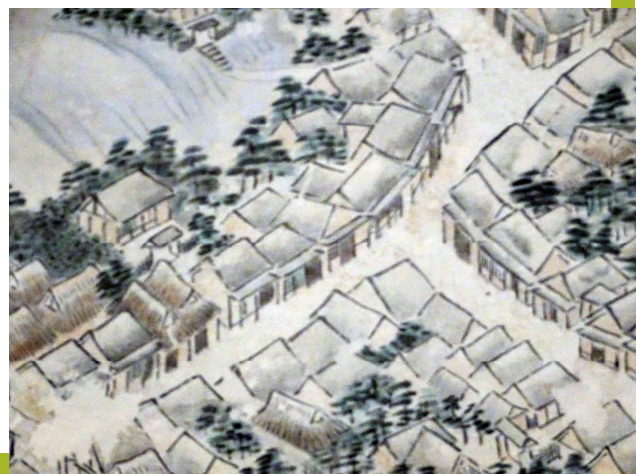


①寛永2（1625）の杵築7ヶ村の屋敷地＝289軒

うち、千家120軒、北島104軒、松林寺3軒、神宮寺1軒、別火12軒、佐草19軒、長谷8軒（広島大学所蔵「杵築検地牒」）。

⇒住人のほとんどは千家・北島家の借家人）

②従って住人の多くは大社の神人。一方で町ごとに荒神社（産土神）鎮座



社家屋敷と百姓屋敷 (寛文4年(1664)現在)



本殿 檜皮葺き 国造屋敷 柿(こけら)葺き
 社家屋敷 茅・柿(板)葺き、藪と柵が取り巻く
 百姓屋敷 森・奥谷村の神人・百姓屋敷43棟
 うち 掘立柱36棟
 石居(礎石柱)7棟

江戸初期→掘立柱から礎石柱の民家への過渡期
 (「奥谷村森村両村両所神人百姓家引領牒」)



明治4年(1871)時点での 千家・北島家所属社家の分布

- 千家家所属の社家
- 北島家所属の社家

- ・ 社家の大半は、中世と同じく宮内村(森村)に集中
- ・ 越峠・市場・中村・大土地・修理免などを中心に混在して分布
- ・ 宮内村以外に所在する社家の多くは御師を兼ねる

「大社町絵図」(手銭家)に、「出雲国大社神地略図面」(平岡家)のデータを図示



まとめ

道路の区画等は昔とほぼ変わらず
一方で自然景観（特に海岸線）は激変

大社（杵築）は、絵図・古写真と文献・古文書
により、細部まで年代の変遷が辿れる（検証可
能な）地域



明治24年（1891） 7月26日、小泉八雲、
西田千太郎、養神館に宿泊、翌日稲佐の浜で海
水浴（西田の日記）

絵葉書 [上]弁天島周辺で海水浴をする小学生
[下]養神館（現在の民宿関屋付近）

